

成逸まちづくり推進委員会ニュース

平成 27 年 2 月

成逸学区では「まちに住み、働き、訪れる、誰にとってもこちよいまちを維持、発展させる」ことを目的に、安心して安全なまちづくりに取り組んでいます。「ご近所のお声かけで安心なまち」、「みんなで楽しい町内会活動が活発なまち」を通して、「顔の見える安心感のあるまち」が目標です。

成逸学区では「私のまちに町内会があって良かったと思えるまち」を目指して、取組を継続します。

■町内会を基本とした様々な取組により、顔の見える安心感のあるまちを目指しています。

■各町福祉防災地図の作成・改訂

自主防災会で災害時や日常の福祉活動のための活動目的で、各町のお年寄りや支援の必要な方を把握して**福祉防災地図**を作成しています。

町内会長が緊急時のために保管しています。随時、内容の更新を行っています。



■各町避難行動マニュアル策定：平成 24 年度

各町の災害発生時の一時避難場所や防災設備の位置をプロットした**防災マップ**を作成しました。毎年実施の防災訓練ではこのマニュアルにそって、避難訓練を実施しています。

家族みなさんと今一度、緊急時の行動を確認してください。



■各町の緊急連絡網の作成：平成 24 年度

防災マップ作成と同時に、緊急時における**各町内の緊急連絡網**を確認しました。防災マップと併せて、「**各町避難行動マニュアル**」としてまとめ全戸に配布しました。

毎年の防災訓練では緊急連絡網による伝達の訓練を積み重ねてください。



■みんなの居場所：ほっとせいつ開所

：平成 25 年度

「まちの縁側」と呼ばれる、さまざまなヒトやコトがゆるやかにつながる場づくりを学び、成逸学区でもみんながゆるやかにつながる居場所「**ほっとせいつ**」を町家をお借りして6月から開所しました。毎週火曜日に高齢者等が集って交流しています。



■「地蔵盆」記録集作成：平成 25 年度

市が地蔵盆を無形文化財に指定する取組を踏まえ、成逸学区 26 ケ町の地蔵盆実態調査を行い、『成逸の夏の風物詩「地蔵盆」の記憶』として記録集を作成しました。

地蔵盆が担う世代を超えた地域の交流、地域の絆を再確認しました。



■災害時高齢者支援台帳作成：平成 26 年度

平成 25 年度に高齢者の災害時における避難支援に関する意向調査を実施し、多くの高齢者の方から「高齢者避難者支援台帳作成」に同意が得られました。

平成 26 年度に災害発生時や緊急時に避難困難な方を迅速かつ的確に支援を行うことを目的に、73 歳以上の高齢者全員に「**成逸ほっと安心カード**」による登録意向確認を行い、多くの高齢者の方から支援要望が出され、「**登録者台帳**」「**登録者マップ**」を作成、町内会と成逸住民福祉協議会が保管することとしました。

台帳情報について緊急時に備えて関係機関等へ提供することの登録者同意のもとに実施しています。

■平成26年度から京都市の支援を得て、「成逸らしい防災まちづくり」の取組を開始しています。

京都市では空き家対策、密集市街地、細街路対策、地域のまちづくり支援などを総合的に展開するため、学区単位での取組を開始しています。成逸学区ではこれまでの防災まちづくりをさらに発展させるため、平成26年度から京都市と連携して、「成逸らしい、成逸ならではの防災まちづくり」の取組を開始しています。調査は平成26年10月に町内会長立ち合いのもと、全町内会で実施しました。

■26年度 成逸学区防災まちあるき調査結果の概要 (平成26年10月調査)

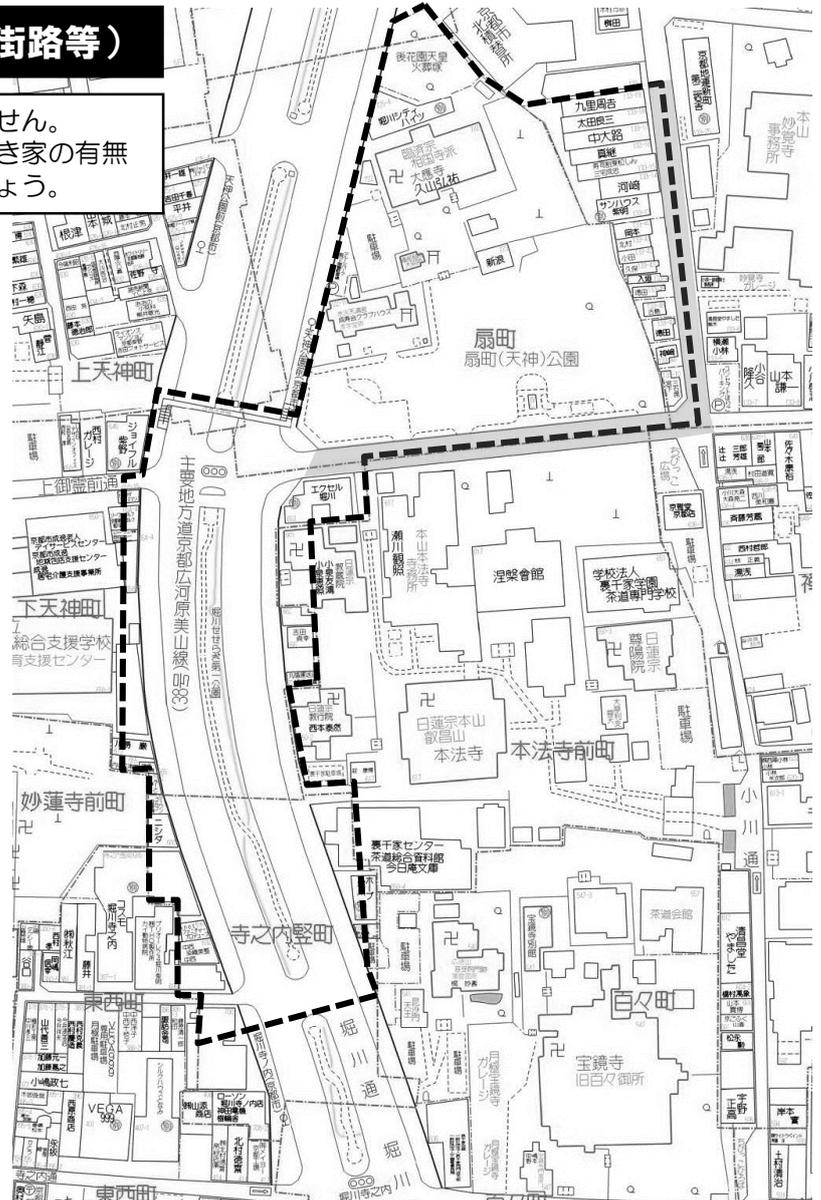
路地の分布状況	<ul style="list-style-type: none"> ●袋路が多数分布している →袋路は、地震時等に袋路の入り口の建物が崩壊すると、避難が困難になる。 ●袋路や幅員の狭い路地に、空家が多い →袋路や幅員の狭い路地にのみ接する敷地では、法的に建替えなどの建物更新が困難など課題がある。
確認された空き家の状況	<ul style="list-style-type: none"> ●空き家総数 67軒 ●管理状態 管理状態良好 54軒(81%)、管理不全状態 13件(19%)

■27年度取組 26年度のまちあるき結果を踏まえ、安心安全な成逸のまちづくりの実践をめざします。

- 防災まちづくりの推進 - 防災まちづくりの取組方針の検討、具体的な防災対策の検討・実施
- 空き家対策の推進 - 空き家の実態の確認、管理不全空き家への対応、空き家の利活用の検討

東天神町 防災まちづくり現況(細街路等)

- 町内には路地や行き止まり通路は見られません。
- みなさんで建物の耐震問題や防火対策、空き家の有無などを点検して、安全なまちを目指しましょう。



●通路、路地

- 幅員 4m以上
- 幅員 1.8m～4m未満
- 幅員 1.8m未満

●路地奥の状況

- ✕ 行き止まり
- ➡ 一方向避難可能
- ↔ 二方向避難可能

■発行：成逸まちづくり推進委員会 成逸自主防災会

■協力：京・まち・ねっと 石本

成逸防災まちづくりニュース

27-No.1 平成 27 年 5 月

成逸学区では 26 年度に京都市の支援を得て、「密集市街地や細街路の安全性向上を目的とした防災まちづくり」の基礎調査及び京都市が進める「地域連携型空き家流通促進事業」の取組学区の認定を受け、空き家に関する調査を同時に行いました。

27 年度はこの基礎調査を踏まえ、成逸学区の防災まちづくりに関する様々な取組に対して、京都市の支援が予定されています。成逸学区では京都市と協働で成逸学区の防災まちづくりを進めるにあたり、成逸まちづくり推進委員会を中心に、具体的な取組を進めてまいります。

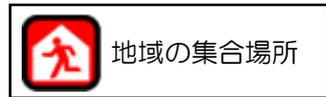
■平成 26 年度の防災まちづくり現況調査結果を各町ごとに、ニュースでご紹介しました

■26 年度 成逸学区防災まちあるき調査結果の概要

路地の分布状況	<ul style="list-style-type: none"> ●袋路が多数分布しています →袋路は、地震時等に袋路の入り口の建物が崩壊すると、避難が困難になります。 ●袋路や幅員の狭い路地に、空家が確認されています →袋路や幅員の狭い路地にのみ接する敷地では、法的に建替えなどの建物更新が困難など課題があります。
確認された空き家の状況	<ul style="list-style-type: none"> ●空き家総数 67 軒 ●管理状態 管理状態良好 54 軒 (81%)、管理不全状態 13 件 (19%)

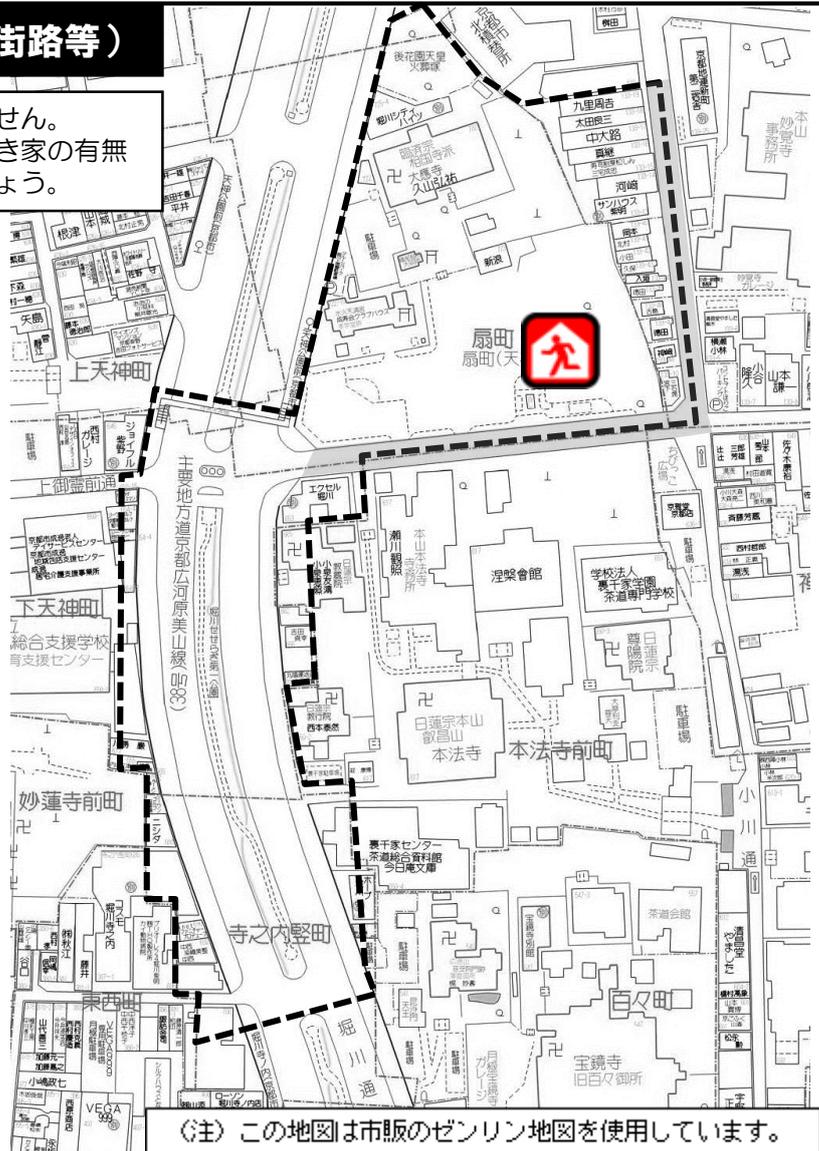
東天神町 防災まちづくり現況(細街路等)

○町内には路地や行き止まり通路は見られません。
○みなさんで建物の耐震問題や防火対策、空き家の有無などを点検して、安全なまちを目指しましょう。



- 通路、路地
 - 幅員 4 m 以上
 - 幅員 1.8m ~ 4 m 未満
 - 幅員 1.8m 未満

- 路地奥の状況
 - × 行き止まり
 - ➡ 一方向避難可能
 - ↔ 二方向避難可能



(注) この地図は市販のゼンリン地図を使用しています。

「防災まちづくり」とは？

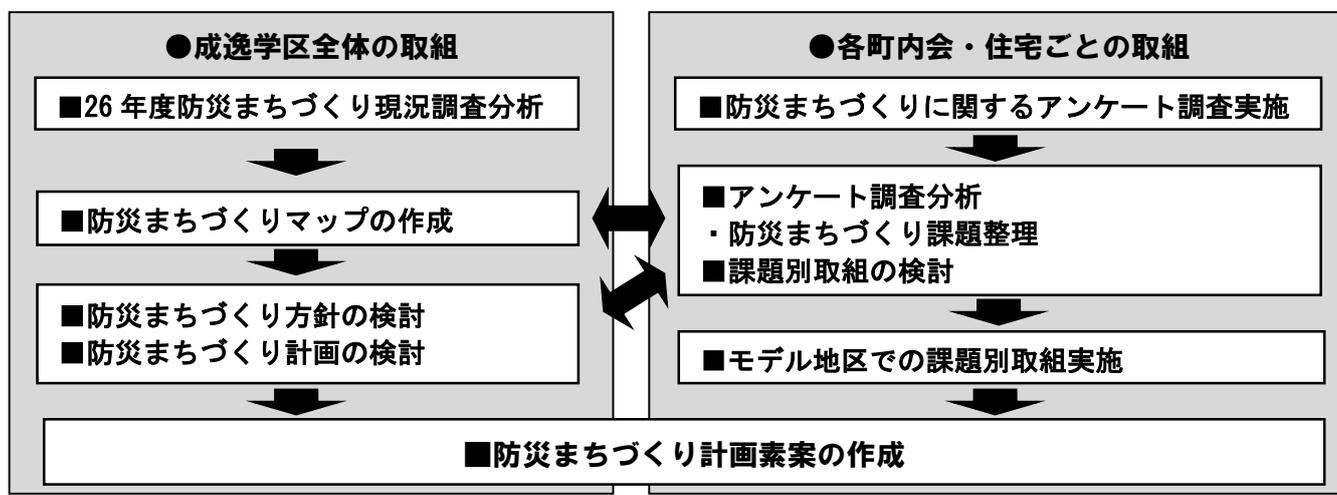
「防災まちづくり」は地震や火災に強いまちをつくるため、住民と行政の協働で、家やまち、さらにはまち全体の安全性を向上させることを目的としています。

市民の生命・暮らしの安全を守り、
次世代に継承するため
地震や火災に強いまちをつくる

- 1 避難ができる まち
- 2 倒れない 壊れない まち
- 3 燃えにくい 燃え広がらない まち

■平成 27 年度は京都市と協働で、成逸らしい防災まちづくりの実践を目指します

27 年度は「成逸学区全体の防災まちづくり計画」と、「みなさんの住宅や町内会の防災上の課題を検討して、個別の取組みの実践」を並行して取り組んでまいります。



【コラム】昔と今で建物の耐震基準が違うの？

建築基準法は昭和25年に制定されましたが、建物倒壊の被害が多かった宮城県沖地震（昭和53年）を受けて、昭和56年に耐震基準が強化されました。このように、**昭和56年以前とそれ以降の建物では、地震に対する強さが違います。**

●京都市では、耐震改修に対する様々な助成制度を実施しています。特に平成27年度は耐震診断費用が無料です。

【コラム】建替えができる道って何？

建替えができる道の条件は以下の通りです。

- ①国道や市道などで幅員が4m以上のもの
- ②古くからある道で幅員が4m未満のもので、
・幅員が1.8m以上 ・通り抜けているもの

●袋路や幅員1.8m未満のものは、建替えができません。

●京都市ではこれらの袋路や狭い道でも建替えができる新しい制度を開始しています。

【コラム】地域の集合場所とは？

大地震が発生した場合に、地域のみなさんが互いに協力し合って、安否確認、救出救護活動、避難所までの移動や消火活動などの必要な災害対応を組織的に実施するために集合する場所で、町内会ごとに事前に決めています。平成25年3月に発行した各町避難行動マニュアルに記載していますので、ご確認ください。

●もし地震などの大災害が発生したら!!!

- ①まずは家族の安否確認と自宅の被害状況の確認
- ②家族そろって、**地域の集合場所**へ
- ③ご近所の安否確認、救出救護活動等を行って
- ④みんなで**避難所（北総合支援校）**へ避難します

自宅

安全に避難
できますか？

地域の集合場所

● 防災まちづくりアンケート調査結果を報告します。

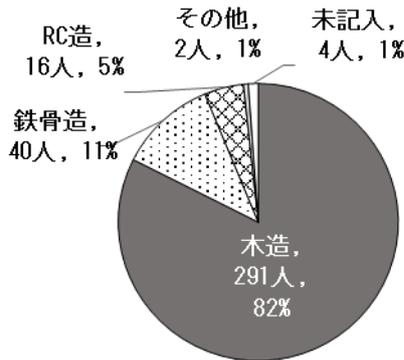
成逸学区では 26 年度に引き続き、27 年度は京都市から本格的な支援を受けて、成逸学区の防災まちづくり計画策定や具体的な防災まちづくりの実現に向けた検討を開始しました。

今回、成逸学区の防災まちづくり計画に反映し、みなさんが望まれる的確な防災まちづくりを推進するため、アンケート調査を実施しましたが、45%の回収率でした。その結果について以下にご報告します。

■ 回答者のご自宅のことについて

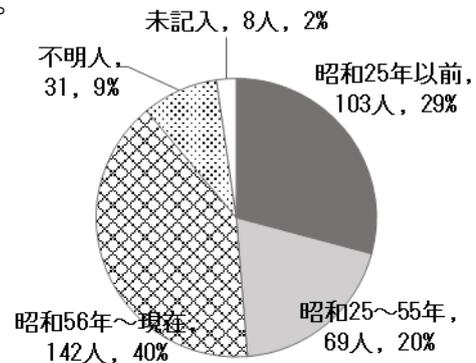
問 自宅の構造は？

自宅の構造は 82%が木造で、次いで鉄骨造が 11%の割合でした。木造が圧倒的に多いことがわかります。



問 住宅建設時期は？

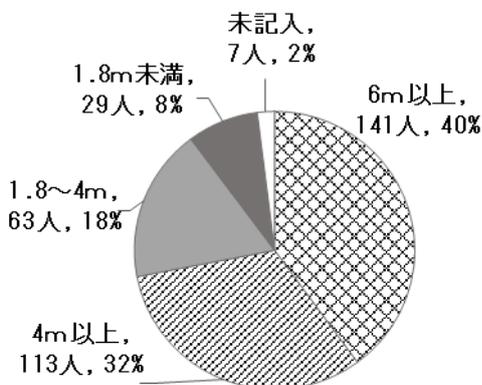
昭和56年以降の新耐震設計基準の住宅が 40%と最も多い。昭和55年以前の耐震上課題が想定される住宅が 49%とほぼ半数を占めることがわかりました。



■ 自宅のまわりの「道」について

問 自宅前の道路幅員は？

自宅前の道の幅員は 4m以上が7割を超え、1.8m～4m未満が 18%です。住宅の建替えが困難な 1.8m未満が 8%の回答です。

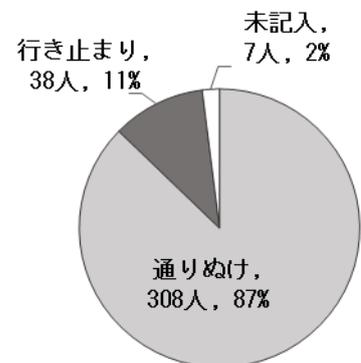


【コラム】建物の耐震基準

建築基準法は昭和25年に制定され、昭和56年に耐震基準が強化されました。昭和56年以前とそれ以降の建物では、地震に対する強さが違います。

問 自宅前の道は通りぬけているか？

自宅前の道は 87%が通りぬけているとの回答で、11%は行き止まりとの回答で避難上の課題が想定されます。

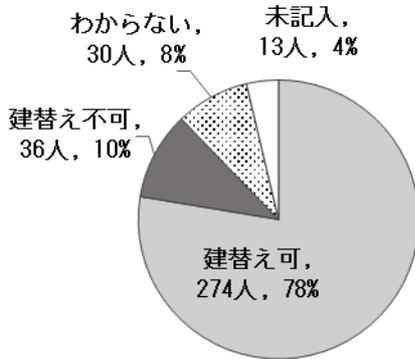


(課題) 成逸学区の住宅は木造の住宅が 8 割程を占めています。その内、半数は昭和 55 年以前の建物で、耐震上の課題が想定される住宅が半数程度あることがわかりました。

■ あなたの自宅は建替えができるか

問 自宅前の道は建替えできる道か？

建替える道と認識の回答が78%で、10%の方は建替えできない道との認識です。1.8m未満や袋路では建替えが困難と認識されているようです。



【コラム】建替えができる道って何？

建替えができる道の条件は以下の通りです。

- ① 国道や市道などで幅員が4m以上のもの
- ② 古くからある道で幅員が4m未満のもので、
 - ・幅員が1.8m以上
 - ・通り抜けているもの

●袋路や幅員1.8m未満のものは、建替えができません。

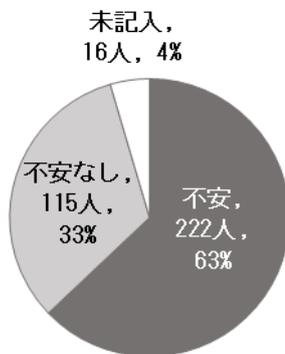
●京都市ではこれらの袋路や狭い道でも建替えができる新しい制度を開始しています。

（課題）回答者のほぼ9割の方は自宅前の道が4m以上で建替え可能です。一方、1割ほどの方は自宅前の道が1.8m未満や袋路などで、自宅の建替えができない現状であり、今後、市と協力して建替えしやすいルールづくりを考えましょう。

■ 地震が起こった時の自宅に対する不安

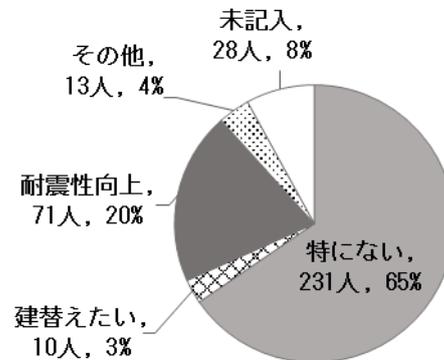
問 地震時の住宅の不安は？

地震時の自宅に不安と思う方は63%で、不安がないとの回答は33%で、不安と不安なしは2：1の比率でした。



問 地震に対する自宅の取組？

地震への自宅の備えについては65%の方が特に考えていないとの回答です。一方、耐震性能向上したいとの回答は20%でした。



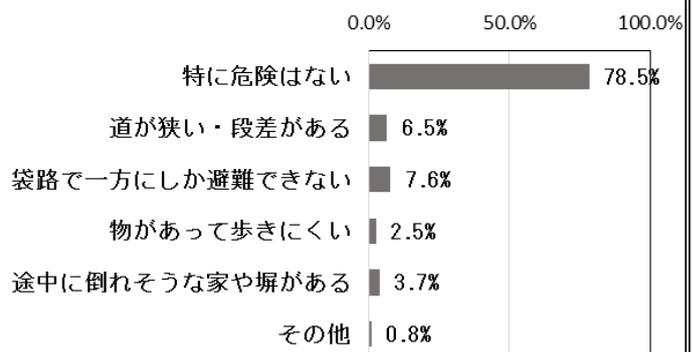
（課題）回答者の2/3の方が地震時に住宅が不安と回答されていますが、地震に対する備えについては2/3の方が「特にない」との回答です。今一度我が家の住宅点検が必要と言えます。

■ 地域の集合場所について

問 自宅から集合場所へ安全に避難できるか？

自宅から地域の集合場所への避難経路について「特に危険はない」が79%の回答で、集合場所までの安全性の課題は少ないようです。

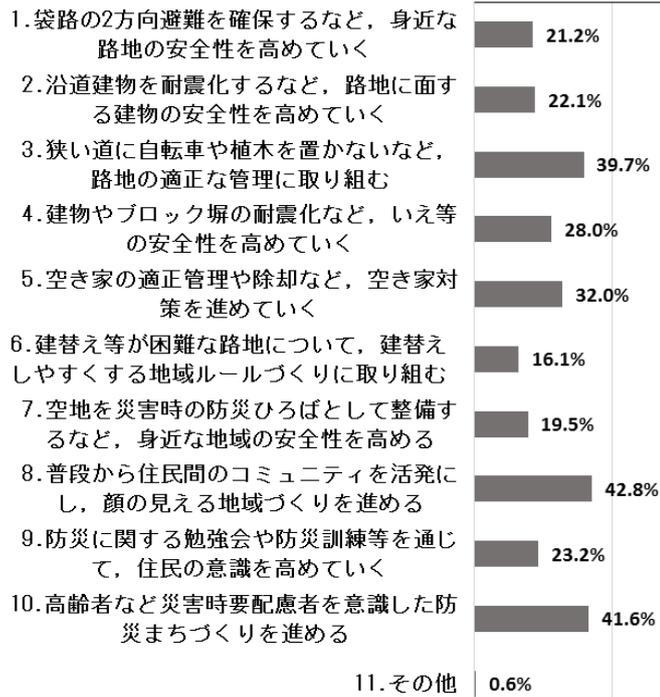
（課題）自由意見で地域の避難場所の安全性の指摘があり、町内会での検証が必要です。



■ 成逸学区全体での防災まちづくりの取組みについて

今後、成逸学区全体での防災まちづくりの取組みについて、「8.普段から住民間のコミュニティを活発にし、顔の見える地域づくりを進める」、「10.高齢者など災害時要配慮者を意識した防災まちづくりを進める」、「3.狭い道に自転車や植木を置かないなど、路地の適正な管理に取り組む」の3項目は4割前後の回答がありました。

(課題) 成逸学区全体としての防災まちづくりの取組みについては、まずは個人や町内会ですぐに取り組めることから始める。



■ 成逸学区全体での防災まちづくりについてのご意見をお伺いしました

■ 主な自由意見の概要を紹介します

防災上課題に感じること	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した家が多く、老朽化した家を見ると不安。 ・避難路に物や危険なものを置かない。 ・集合場所が狭い。 ・集合場所の前が自動車置き場で危険と感じる。 ・高齢者や災害弱者の方を地域で把握してサポートが大切。 ・家族での話し合いなど、まずは個人の備えが必要と感じる。
成逸学区全体の防災まちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の家や塀の耐震性能を向上させる。 ・避難路の安全性確保のため、沿道の老朽化した建物の補強と撤去を検討する。 ・近隣住民との交流をもっと深め、住民間のコミュニティを大切にする。 ・近隣町内会と交流を深め、防災問題を話し合う取組を年に1、2回実施する。 ・阪神淡路大震災で倒壊建物の下敷きになった方が多かったことを考えると共助が大切。 ・各家庭で必要なものを揃え、日ごろからの備えが特に大切である。 ・町内や学区で防災意識を高め、空き家などの管理状況をもっと把握しておくべき。

● 防災まちづくりアンケート調査のまとめ

今回のアンケート調査結果から、成逸学区全体で今後検討すべき課題を整理します。

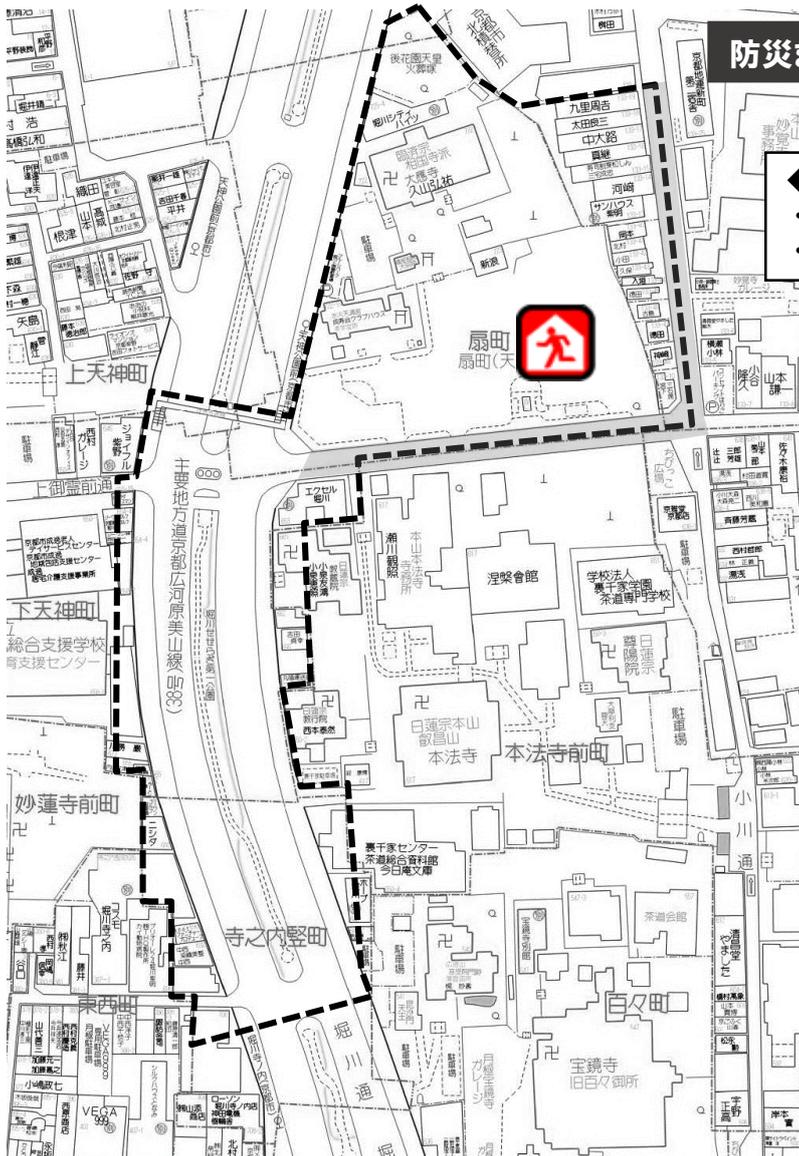
- (課題1) 住宅の耐震性能向上や住宅の安全点検など「自宅の安全点検」に取り組む。
- (課題2) 住宅廻りや避難路の安全点検など「まちの安全点検」に取り組む。
- (課題3) 1.8m未満の道や行き止まり通路沿いの住宅で「建替えしやすくなる検討」に取り組む。
- (課題4) 地域の集合場所の安全性や広さについて、今一度町内会で検証する。
- (課題5) 空家の適正な管理や空家活用に向けて、町内会および学区全体で取り組む。
- (課題6) 近隣住民と近隣町内会との交流促進など、すぐ取り組めることから実践する。

● 今回の調査結果等を踏まえ、町内会および学区全体の防災まちづくりを検討していきます！

●「東天神町」の防災まちづくりの取組みを提案します

◆アンケート調査における「東天神町」の防災上の現況（アンケート回収率：57%）

木造率	・自宅の木造の比率は57%
旧耐震化比率	・昭和55年以前の旧耐震基準時の建物の比率は57%
地震時の自宅の不安度	・64%の方が地震時の自宅に不安との回答
耐震性能向上への意向	・耐震性能向上が必要と認識される方は21%
建替えが困難	・建替えが困難との回答はなし



防災まちづくり現況：26年度調査

◆26年度調査に見る課題

- ・町内には行き止まりの道はありません。
- ・現在、空家も確認されていません。



地域の集会所

●通路、路地

- 幅員4m以上
- 幅員1.8m～4m未満
- 幅員1.8m未満

●路地奥の状況

- ✕ 行き止まり
- ➡ 一方向避難可能
- ↔ 二方向避難可能

◆『東天神町』の町内会での今後の取組についての提案

- ・町内において防災面で緊急を要する課題は見られません。
- ・今後は個別の住宅の安全性向上の取組と町内会の交流促進への取組が望まれます。

■発行：成逸まちづくり推進委員会 成逸自主防災会

■協力：京・まち・ねっと 石本